



下大和田谷津田だより



2004年6月号

第52回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

5月2日 曇り/晴れ

田んぼはシュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルの声が賑やか。ニホンアカガエルは手足が出て尾をつけたまま跳ねているものもいた。もう間もなくカエルになって畦に出てくるだろう。気温が少し低めで資料に用意したヒガシカワトンボが出てくれるか心配であったが気温が上がるにつれ、カラーバリエーション豊かに姿を見せてくれた。観察会終了後は向かいの斜面林下の壊れた土水路を修復した。埋まった土砂を上げ、杉、檜の倒木で杭を打ち、土嚢を積み土手をなおした。

古代米の苗床をも用意した。

開花植物：ハルジオン、ハハコグサ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、オニタピラコ、ノゲシ、オニノゲシ、オオイヌノフグリ、カキドオシ、オヤブジラミ、ツボスミレ、タチツボスミレ、ゲンゲ、シロツメクサ、コメツブツメクサ、カスマグサ、カラスノエンドウ、カタバミ、イヌガラシ、タネツケバナ、クサノオウ、ナガミヒナゲシ、ムラサキケマン、ケキツネノボタン、タガラシ、ミミナグサ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ、スイバ、キショウブ、ホウチャクソウ、ショウブ、カササゲ、イヌムギ、スズメノカタビラ、ヒエガエリ、スズメノテッポウ、チガヤ、サワフタギ、ハリエンジュ、クサイチゴ、ハンショウヅル(蕾)。

昆虫：キアゲハ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、タケカレハ(幼虫)、クワゴマダラヒトリ(幼虫)、サワフタギにシロシタホタルガの幼虫、ヒガシカワトンボ、シオヤトンボ、キリウジガガンボ、ギシギシにコガタリハムシ、ミイデラゴミムシ、ゴマフカミキリ。ヤナギのヨコズナサシガメの幼虫のコロニーはなくなっていた。

鳥：アオサギ、カルガモ、コジュケイ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ハシブトガラス。

他：タモロコ、ドジョウ、メダカ、スズエビ、アメリカザリガニ、マルタニシ、カワニナ、サカマキガイ。

シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、ニホンアマガエル。

(参加者：大人17人 報告：網代春男)

第35回谷津田プレーランド・プーヅェクト(YPP)

みんなでわいわい田植え

5月8日 晴れ

さわやかな天気恵まれ、お馴染みさんもはじめて参加する家族も大勢の方がかけつけてくれました。まずはでこぼこの田んぼをならす作業からスタートです。斜面林の手入れで出た杉丸太を組んでいかだを作り、一人が乗り、これをロープ引っ張っての田ならしは、子どもたちに人気。途中から子どもたちは完全に泥んこ遊びになり、早くも全身泥んこ。田植えは横一列に並んでまずいつものコシヒカリ田に苗を植えました。子どもたちはだんだんと列から離れて泥んこあそびに行ってしまうのですが、最後まで楽しそうに植えていた小さなお子さんが何人かいたのは驚きです。ちょうどお昼には植え終わり、その田んぼを眺めながらのお弁当は最高！午後は水路で生きもの探しをしました。メダカが泳ぎ、カワトンボがひらひらのどかに飛んでいました。苗がかなり余ったので、去年赤米・黒米を植えたカヤネズミ田にもコシヒカリを植えることにしました。一角に草がびっしり生えているのを起こしながら抜くのは大変でしたが、子どもたちも交じって少人数でしたが笑顔一杯の田植えでした。一方で、古代米の苗床も見事にできあがりしました。

後かたづけが終わったのは6時を過ぎていましたが、楽しみながらの作業に、大変だったとか頑張ったという気はしませんでした。ふと気づくと結構疲れていたという感じです。皆さん、本当にお疲れさまでした。稲の成長が楽しみです。

(参加者：大人32人・小学生19人・乳幼児5人、報告：高山邦明)

下大和田季節のたより

5月16日 早くもツバキにカトムシ、クヌギにコクワタの姿。夜の谷津田でシュレーゲルアオガエルやアマガエルが元気よく鳴く(網代・田中)

5月22日 材刈りがさえずり、コガネの幼体の姿が見られる。古代米が順調に発芽、生長(田中)

5月26日 夕方の谷津田でホトトギスがしきりにさえずる(田中)

水田皮膚炎の発生について

5月8日の田植えの後、手足に赤い発疹が出た方がたくさんいらっしゃいました。人によってはかなりの数の発疹が出て、かゆみがひどく、ほとんどの方が通院されました。原因について調べましたところ、田んぼの貝(モリアガエ、サマガイなど)に寄生する住血吸虫のセルカリア幼虫による皮膚炎の可能性が高いようです。住血吸虫というと怖い日本住血吸虫を思い起こす方がいらっしゃると思いますが、これはすでに日本では終息しており、今回の吸虫はイトリやアヒなど鳥を最終宿主とするタイプです。寄生虫はすぐに死ぬため、発疹のかゆみ以外、人の体に悪影響は与えませんが、かゆみがひどく、1~2週間と長期間続きます。水田皮膚炎の発生は日本各地で知られていますが事例は少ないようで、保健所などに問い合わせましたが、千葉県内では過去に報告例が見あたらないようです。私たちにとっても、これまで3年間米づくりをしてきて初めての経験ですし、地元の方に伺っても思いあたらないということでした。しかし、今年は下大和田に比較的近い別の谷津田でも、症状の似た発疹が出たという情報があって、この地域で広範囲に発生している可能性があります。対策はゴム長靴にゴム手袋で田んぼに入ることです。下大和田の谷津田プレーランドでは泥んこの触れあいが大きな魅力ですが、今年はがまんした方がよいようです。今後、イベントの際には参加者の皆さんに十分ご説明し、また、長靴、ゴム手袋の用意をお願いしたいと思います。今回、被害に遭った皆さん、初めてのことで事前に予測できず、申し訳ございませんでした。

高山邦明